

令和 7 年度 チーム有馬郡市民講座 人生会議してみませんか？

アンケート結果

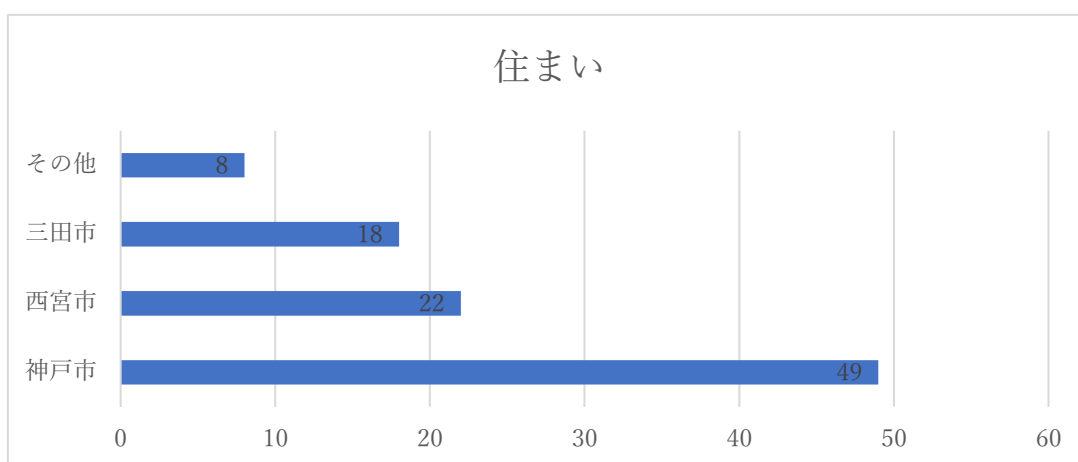
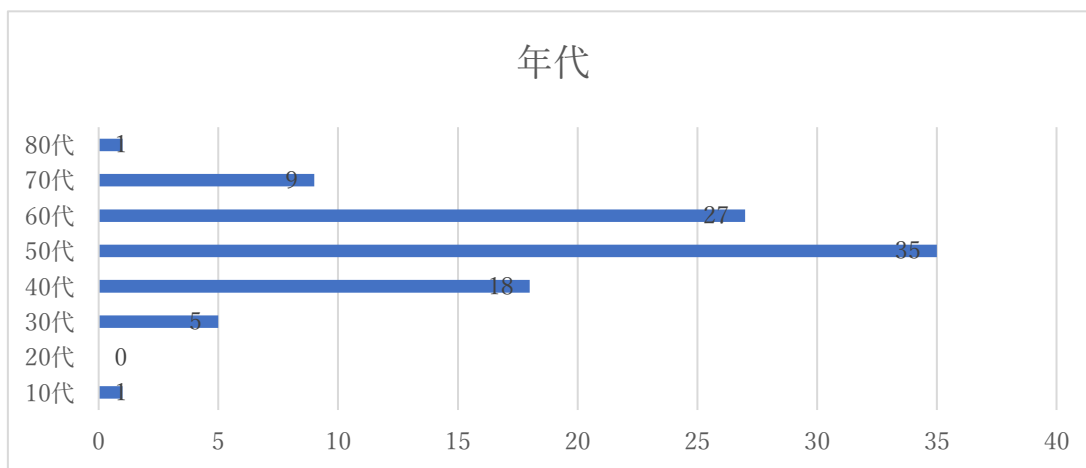
日時:令和 7 年10月18日(土)14:00~16:15

場所:北神区文化センター 大ホール

参加者:118名(関係者含む)

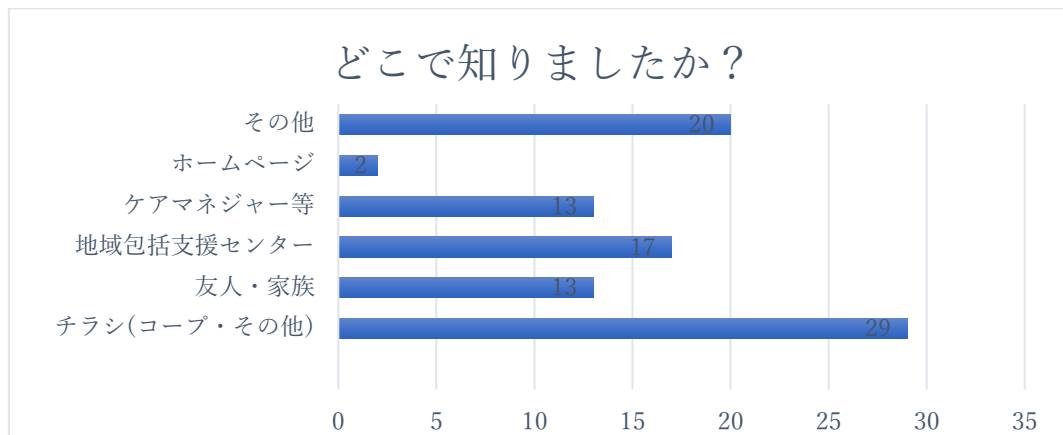
回答者97名(回答率82%)

問1 ご年代・お住まいについてお聞かせください



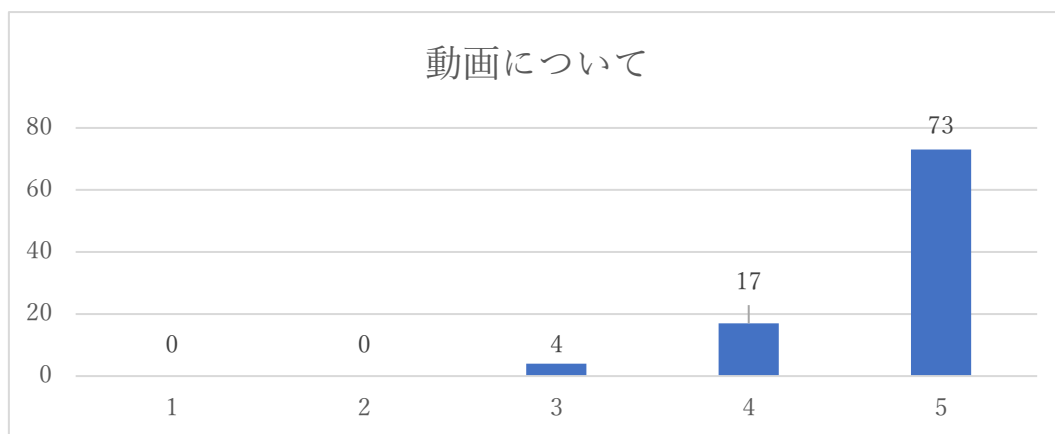
問2 市民講座についてお聞かせください

○市民講座をどこでお知りになりましたか(複数回答可)



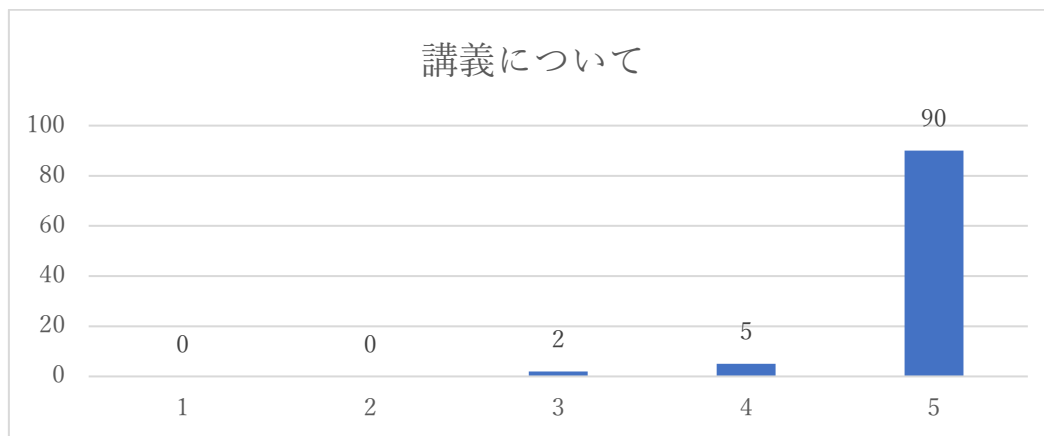
○動画についてお聞かせください

1(分からなかった)―5(よく分かった)

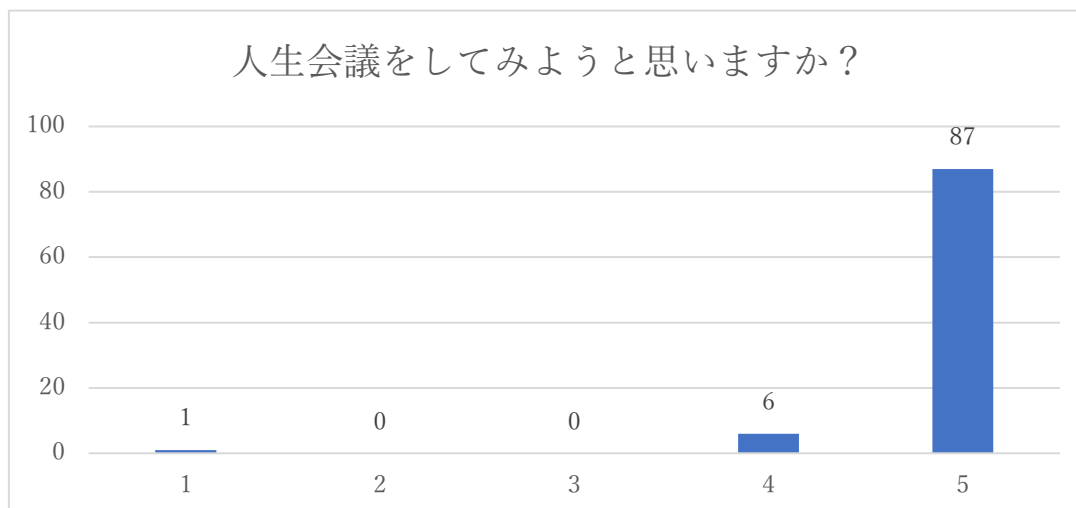


○講義はわかりやすい内容でしたか

1(分からなかった)―5(よく分かった)



○人生会議をしてみたいと思いましたが 1(したくない)ー5(してみたい)



○理由をお聞かせください

自分の人生なのでまわりにゆだねず自分で決定したい

娘と2人でしていましたが、家族で人生会議を改めてしたいと思った

自分自身の人生をどう生きるのかをみつめる時期であると再認識した。子供達に今の自分の考えを伝えておきたいと思いました

すごく大事であると感じたから

有意義な人生を送るため

本人も自らも後悔をしたくないから

これからも何度も繰り返し家族と話しをしていこうと思いました

まずは何を大切に過ごしているか家族に話をしたい。

私自身がやりたいです

必要性は感じているが、誰と話せばよいのか悩む

ACP→ALP は今から始められることを知りました

自分のため家族のため「あーACP をして良かった。お互いが思える(最期に)判断を迫られたとき判断材料にできる

独身で家族を困らせたくない

その人の状態に合わせての話し合いを行うこと

自身も高齢者になりまた独り身となっておりこれから先、人生100年と言われている中、自身に向き合ってみようと思った

急な状態変化や交通事故、その他年齢に関係なく、何があるのかわからないから、私は一人っ子なのであとの処理が大変だから。

一度もしたことがないこと、またせずに過ごすことの不利益を強く感じたから

それぞれの思いを知るきっかけとなり、今後の介護をどうしようかと悩むより、本人の思いをこうしてあげたいなど考えられたら、とてもいい介護ができると思いました。

人生会議をしてみたいと思います。しかし関わる人達の認識(理解)が同じというわけではないので難しい面もある。

私も PT なので早くにしたいと思います

自分の思いを子供たちに伝承したい

高齢の父が同居をしていますが、なかなか受け入れてくれないというか、うまく伝えられません。せめて、私たちだけでも、残される家族が困らないように、自分の人生の最後のためにも皆が集まったときに声をかけてみようと思いました。

以前はがん専門の病院で働いていました。今地域に密着した病院で働いていますが、最期をこの病院で選んでくれる患者さんのために、その人らしい選択ができるよう何かをした

いと思いました。

自分 夫と両親に対してのほうがやっていないなと感じました。持ちかける、アドバイスをいただいたのでやってみたいと思います。

自分の人生最後をどうしたいのか、改めて考え家族の負担にならないようにしたい。周りの人にも広めたいと思いました。

親 家族としてみたい

とても大切な家族の希望をかなえてあげることが、その人をとても愛している証

母親が難病なので少しずつ具体的に話したいと思いました。

その人が最も大切にしていることは何かを(立場なりに)把握するための信頼関係を築けているのか自信がありません

自分の考えを少しずつ家族に話してみたいと思えた

家族が困らないように自分の悔いが残らないようにするため

いつでもできると思っていると、できる機会は作らないとないと思いました

いつどんな事があるかわからないが、元気なうちから、家族と「こんな話聞いたよ」ときっかけに話し合ってみたいと思った。何も話しをしていないと、きっと迷ってしまうことになると思う

50代も後半でありどう死ぬかと思うことがここ最近思うが、どう生きるか楽しみを考えるために家族と話ししてみたい

その人(自分)の望みをかなえたい。かなえてあげたい。最高の人生だったと最後に思っほしい。

親が介護2で必要

自分も高齢者となり先日六甲病院緩和ケア病棟で妻を見送った

すでに人生会議は自分の母親からされていたと、今改めて気づきました。そして今。自分も子供達とたびたびしているなと感じました。これからも続けていきたいと思っています。亡くなった母に改めて感謝です。

軽いタッチだが、娘として、娘も聞かせてもらっていたら助かると思いました。

まずはノートに書いてみようと思った。タイミングをみて話せたらいいが、なくても子供が迷わないようにしたいと思いました。

子供には障害があります。常日頃 なきあとを考えています。

母が話し合っていたが、先に進まず悩んでいたが進め方について勉強になった

この年になって ACP について何も考えていない 今後は少しずつ考えていきます

母の体調が悪化したがいや考えを全く知らなかった

親が高齢であり介護保険を利用をしているため

どんな人にとっても必要なことであると感じました。生きていくための話し合いである意識できるような、声かけをして人生会議をできればと思います。

母親(要介護5)を就労しながら介護。夫ががん治療後、4年経過し検査結果はよいが、最近(半年ぐらい)食欲が減少しているという環境であるため。

家族のためにと思った

自分を振り返ったり、どうありたいか、また家族はどう考えているのか。話し合える機会を持ちたいと思います。

自分が判断できなくなる前にしっかり意見を伝えたい

関本先生の経験されたお話が貴重でした。Everyday is gift。一日を大切に過ごすためにできることをしたいと思いました。

必要だと思ったから

体調をみながら時々話をしてみようかと思う

自身も5年前にガンになったので1日感謝ですごしている

何気なく家族で集まったときにやってみたい

母とはもう意思疎通ができない状況なので、本人の意思確認ができない 後悔 自分は母が亡くなると家族はいないので話あう人がいない

自分の意志をどこにも残していないことでその問題点に気づいた

この時期にきているから

自分のため

主人をなくし一人暮らしになったので、自分のことはきちんと子供達と話しておきたい

とても大切なことに気づかせていただいた

今の私はわかりません。はいるタイミングが難しい。

判断をまようことはないように

折にふれよく話し合っている

親が50を超えているから不安だし兄弟が病弱だから

両親ともに亡くなっていますが、義両親と会議しみんなが悔いのない時間をすごしたいので。

今までこういう話をタブーと思っていたが、最期まで、満足度の高い人生を家族と過ごすため「人生会議」を試みようと思えるようになりました。

家族皆にとってこの先納得できる選択をしたいから

必要と思います。ただ、切り出し方機会のとらえ方を考えていきたい

子供達と一度話し合いたい

○講座に参加して今後の生活に活かしたいことはありますか

CM をしている。利用者に寄り添った支援をしていきたい。

ケアマネジャーの仕事をしていますが職場に持ち帰り話し合い今後にかかしていきたい

1日1日を大切に感謝しながら生活していきたいです。

仕事の場面に加え自分の人生会議を考えたい

関本先生の体験、経験した話をしっかり心にとどめ訪問看護で関われる利用者様につなげたいと思います。

訪問診療をしているため患者様、家族様との関わりに活かしていきます

人生会議をはじめます

もしトイレに行けなくなったらとこのキーワードを頭にしっかり置いておき日々の支援に

つなげていきたいと思います

仕事に活かせたらと思う

職場に持ち帰り広めていきたい

ACP の入り方について(患者対医療者)まず ALP

家族間で話し合いをする

人生会議について話して反応が薄い時は次のチャンスを待つことが必要な 話はその通り
と思いました。

自分のこれからを考えていくことから考えようと思った

自分の考えを家族に伝える

まずは両親も含め家族と人生会議

大事なことはみんなと話し合う。話し合いの手順を利用し気持ちは変わるので何度も繰り返し話あう。

父親(認知症)の ACP をしようと思う

上記と同様に自分自身のことは行っていきたいです。仕事でも機会があれば声かけを行
っていきたいです。

仕事もそうですが、自分のこと、家族のことを考えて、今日話し合おうと思います。

いきなり胃ろうや人工呼吸器の話をもっていくことはできないし、どう話をもっていこう
かと思ったときに「もし自分がトイレに行けなくなったら」の話は、すごく身近でイメージが
しやすい導入だと感じました。ぜひ、実践していきたいと思いました。

仕事上の参考にしたい。自分や周囲の人のために「ACP」を伝えていきたい

人生の話からはじめる

毎日の大切さ 生かされていることの大切さを再認識した

親族や自分、利用者でもそのようなことがあれば活かしたいを思いました。

主役は本人だということを改めて思いました。これからも本人に思いやご家族のことを考
え支援を行いたいです。

バッドニュースの伝え方についてよくわかりました

仕事の上でもプライベートの上でも 講座の話を参考に少しでも話ができればと思います
仕事が福祉関係なので高齢の方々 家族を含めどう接するか考える機会になるようにしたい

この講座で得た内容は施設スタッフとも共有したいを思います。それが今自分にできるとだと思います。

楽しむことを忘れず生きていくことは素晴らしいと思います。

感謝を忘れずに楽しみを見つけない。

仕事にもプライベートにも活かしたい

ACP の導入を兄弟でおこないたい

自分の考えをよく話しておく

毎日大切に生きる

人生のポイントで家族で話し合う機会をもつことが大事であると感じました

私は看護師で参加しました。市民の質問が役に立ちました

大切な人と話し合うことが大事だと思いました

やはりすぐに人生会議(ALP と ACP)をしたいと思います。

今日から活かしていきます。普通に明日が来るとは限らないと強く思います

両親が健在ですが、自身を含めて好き嫌いを共有し穏やかな時間笑顔の時間を多く持てるよう生かしていきたいです。

皆にも ACP のことを伝えたい

人生1回趣味楽しみを作らないといけないと思う。やりたいことが見つからないので見つけたい

私も死ぬまで働いていたい 家族を大事にしたい

自分のトイレに行けなくなった時のことは、時々考えていないと思う。

もう一度家族と話し合います

大切な人に愛を伝えること

毎日を大切に生きていきたい

人生会議は大切なことです。それはよくわかりました。ちょっとずつね(ストレスためないようにしないと)

1日1回大事にしたいと思いました

今の生活で充分活かされている

他の家族のためにあらかじめ動画をとったり話し合ったりすることをやろうと思ったし、悩んだら、いつすればいいのかが分かった。実際にしてみたい。

自分の意志も積極的に家族に話していこうと思います。

○その他お気づきの点などあればお聞かせください

レジュメが切れていて見にくかった 配布資料で関本先生が解説しているページがほしかった 息子さんの話 とても心に響きました 人生会議の大切さを身をもって感じました

先生のお話がとても素敵でした

経験に関する講座は本当に貴重なものです。

大変有意義な時間でした。すごく素敵でした。ありがとうございました。

とても良い内容で勉強になった

病気の人や癌の末期に人は ACP は賛成です。しかし認知症を伴う老衰に関しては経口摂取ができなくなれば数か月もちません。母が、このような状況で肺炎を繰り返し胃ろう増設を指示されました。胃ろうしても誤嚥の可能性はあり、悩みましたが、息子の希望で留置してもらいました。現在、かなり体力が回復し認知症は進みますが会話は可能です。母の意志は無視しましたが、元気な姿が見られて後悔はしていません。ですので、一概に本人の意思優先でもないのかと思いました。元気な時は、誰も延命を望まないと思いますので、ケースバイケースと思います。常日頃から家族とのかかわりが重要です。

貴重な講演をありがとうございました

自分にとって大切なことは何か、信頼している人はだれかをきちんと考えたいと思いました

貴重な体験を聞かせていただきました

なかなか自分の人生をみなおしたり、考えたりする事はほとんどないですが、自分の人生

を楽しめるように考えていきたいと思います。

とてもよかったです

関本先生の息子様のテレビで前みていたので先生の話聞いてよかった

私はとても心に響きました

ありがとうございました。先生もお体をご自愛ください

とてもわかりやすく素晴らしいお話を聞かせていただいてありがとうございました

私だったら家族だったらこれからどう生きるのか、どう死ぬのかを考えることができました 残された人のこと、その人々が後悔してほしくないそれも当事者の役割と思いました。

前に動画を見たことがある。いい話を聞けました。

ガン、認知症以外のケースも聞きたかった

私は医療従事者ではないのですが、そんな人々に対して広まってほしいと感じました

叔母が22年前 訪問ホスピスでお世話になりました。叔父がクリニックに電話して(私が先生のクリニックを知らせました)車で来てくださった。本人・家族に感動して感謝のうちに亡くなりました。10周年記念会に叔父と一緒に参加しました。先生ありがとうございました。

折角の投影が上下・左側が切れて見にくかった

ACP の説明がわかりやすかった

Google フォームでの受付ですが、参加できるかできないかの返信がなくわかりにくい。

ACP という言葉を初めて聞きました。新しく知ることができました。高齢化社会の中で必要なものと思います。知識の普及に今後ともご尽力ください。



◎講師の先生方、参加者のみなさま、ご協力ありがとうございました。

チーム有馬郡一同(北区医療介護サポートセンター、西宮市北部在宅療養相談支援センター、三田市在宅医療・介護連携支援センター)